

ここから未来へ

No.3

輪島市立門前学園

令和8年5月26日

文責 教頭



嬉しかったこと

先日、6年生が国語の授業の一環として、先生方へのインタビューを行っていました。校長室にも3名の6年生がやってきて、私もいろいろな質問を受けました。その中で、「校長先生になって嬉しかったことは何ですか」という質問がありました。すぐに思い浮かんだのは、先日開催された「MSB（門前スポーツバトル）」での児童生徒たちの姿です。

これまで9月に行っていた運動会・体育祭を今年は5月開催としました。準備期間も短い中、児童生徒会の子どもたちが中心となり、企画や運営を進めてくれました。熱中症対策のため午前中開催という時間的な制約もある中で、「練習が少なくても楽しめる種目は何か」「みんなが盛り上がる内容は何か」と知恵を出し合い、工夫を重ねながらプログラムを作り上げていました。

また、種目名にも子どもたちらしいアイデアが光っていました。

- ・ 「爆裂！おねがいハンター」 → 借り物競争
- ・ 「インフィニティジャンプバトル」 → ハの字跳び

名前を見て「どんな競技だろう」とワクワクするようなネーミングの工夫に感心させられました。特に印象的だったのは「魂の応援合戦」です。赤団と青団が同時にエールを送り合うという新しいスタイルで行われました。子どもたちの大きな声、息のそろった動き、そして何より子どもたちの笑顔に会場全体が圧倒されました。



全校児童生徒は79名。決して多い人数ではありません。しかし、その数以上の「魂」のエネルギーが会場にあふれていました。保護者の皆様や審査員の方々からも「子どもたちが本当にすばらしかった」という言葉をたくさんいただき、大変嬉しく思いました。

人は誰でも、ほめられると嬉しくなるものです。頑張ったことを認めてもらえたり、「よかったよ」と声をかけてもらえたりすると、「また頑張ろう」という気持ちになります。子どもたちも同じです。地域の皆様や保護者の皆様からいただく温かい言葉は、子どもたちの大きな自信につながっています。

その話を6年生に伝え、「それを聞いて、私たちも嬉しいです」と返してくれました。その言葉を聞き、ほめられる喜びや認められる嬉しさは、子どもたちの成長の力になるのだと改めて感じました。

門前学園としてスタートしてまだ二ヶ月です。これからも、応援していただける学校であり続けられるよう、職員・児童生徒みんなで、新しい伝統を築いていきたいと思います。

さて、新しい取り組みの一つとして、今月より後期課程の生徒を対象に、テスト前の放課後学習を始めています。輪島市教育委員会より数名の職員を派遣していただき、「わじまな in 門前」と名付けた学習会を行っています。約3分の1の生徒が参加しており、「また明日も来ます」という言葉を聞いて、安堵しております。

この学習会を始める前に、職員の中川雄介さんから「未来につながる話」として、勉強することで広がる可能性や「幸せになるための三要素」について話をしていただきました。勉強は時に面倒に感じることもあります。しかし、自分の可能性を広げるための大切な力にもなります。9年生で迎える高校受験は、「団体戦」とよく言われます。受験生本人だけでなく、学校や家庭が一つのチームとなり、集中して学べる環境づくりや情報共有を進めていくことで、それぞれの進路実現につながっていきます。

毎年3月に嬉しい合格の花が咲くようにどうかご家庭でも、学習習慣づくりへのご協力をよろしくお願いいたします。

校長 小川由美子

